

# 北秋田市図書館だより

KITAAKITA CITY LIBRARY 2026  
INFORMATION

## 一般書 2

### 今年を受賞作、もう読んだ？

#### 芥川賞

#### 芥川賞

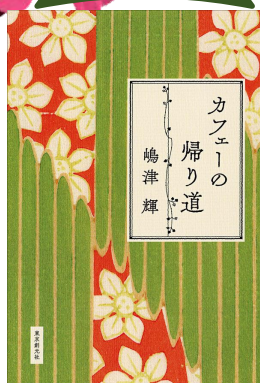


時の家  
鳥山 まこと 講談社



叫び  
島山 丑雄 新潮社

#### 直木賞





カフェーの帰り道  
嶋津 輝 東京創元社



### 芥川賞と直木賞 どう違う？

数ある文学賞の中で最も有名な  
「芥川賞」と「直木賞」  
この2つの賞の違いをご存じでしょうか？

	芥川賞 	直木賞 
ジャンル	純文学 (芸術性重視！)	大衆小説 (エンタメ性重視！)
対象者	新人作家	中堅・ベテラン作家
作品の長さ	短編・中編	長編・短編集
発表媒体	文芸雑誌 (同人誌含む)	単行本(書籍)
役割	純文学の 登竜門	ヒットメーカーの証

ジャンルや選考基準が違うので、どちらが格上で高尚ということはありません。文章の美しさや表現方法の多彩さを重視する芥川賞と、読んで楽しい！と感じるエンターテインメント性を重視する直木賞は、どちらもそれぞれに魅力のある小説が毎年選ばれています。それぞれ読み比べてみたり、過去の受賞作品や受賞作家の他作品を読んでみれば、文学の深みにハマっていくこと間違いなし！ぜひ読み比べて、自分の好みの作風や作品を見つけてみてください。

### LIBRARY NEWS

コムコムで開催！  
人と本を繋ぐ「本の交換会」



ご自宅で、本は眠っていませんか？  
もう読まなくなった本、手放しても良いあなたの本を、他の誰かに繋いでみませんか。

場 所:コムコム チャレンジブース2  
期 間:2月5日(木)～2月19日(木)  
時 間:8時30分～22時

【受入可】単行本、実用書、文庫、単行本の漫画、新書、全集、児童書、絵本、児童調べ学習系、ライトノベル、紙芝居、写真集(人物は不可)  
【受入不可】雑誌、週刊誌・月刊誌の漫画、汚損・破損が著しい本、風俗的・成人向の本、カタログ、同人誌



手続き不要!

無人ブース!

どなたでもOK!

鷹巣図書館の照明が、LEDになりました!

蔵書検索

見違えるほど明るくなった鷹巣図書館に、ぜひ足をお運びください。



鷹巣図書館

電話 0186-62-1707  
開館時間 月～金/9:00～19:00  
土日祝/9:00～17:00

森吉図書館

電話 0186-72-3192  
開館時間 9:00～17:00

休館日 ・毎週水曜日・第3日曜日・国民の祝日

合川公民館図書室

電話 0186-78-2114  
開館時間 8:30～19:00

阿仁公民館図書室

電話 0186-82-2220  
開館時間 8:30～19:00



## 鷹巣図書館



## 変な地図

雨穴 著 双葉社

『変な家』『変な絵』に続く、雨穴「変な」シリーズの集大成！

2015年、大学生の栗原の祖母が死んだ。不審死だった。祖母は死に際、正体不明の古地図を握りしめていた…。そこに描かれた、7体の妖怪。これはいったい何なのか？なぜ、祖母は死に際にこんなものを持っていたのか？謎を探るため旅に出た栗原。そこに待ち受けていたのは、海沿いの廃集落、不可解な人身事故、潰れかけの民宿、因縁に満ちたトンネル、そして、古地図に秘められた悲しい事実だった。あなたは、この謎の答えを受け止められるか？

## 森吉図書館



## 小雪と発酵おばあちゃん

小雪 語り手 NHK「小雪と発酵おばあちゃん」制作班監修 産業編集センター

## NHK Eテレの人気番組がついに書籍化！

発酵食大好きな俳優の小雪さんが、発酵食作りの達人である日本各地の“発酵おばあちゃん”を訪ね、未来に残したいレシピを教わる番組。北は北海道、南は沖縄まで、日本全国の受け継がれし「発酵レシピ」を小雪さんと紐解きます。漬け物、味噌、お茶etc. 大切に受け継がれてきた発酵食の作り方、食べ方、おいしさの秘密を、その土地で長く生きてきたおばあちゃんの言葉で、聞いていきます。

料理研究家・土井善晴さんとの特別対談「土井善晴さんと「発酵」一汁一菜」も収録。

## 合川公民館図書室



## 素人校長ばたばた日記

県庁職員、教員免許なし、いきなり異動命じられました 川田 公長 著 三五館シンシャ／発行、フォレスト出版／発売

## 県庁職員の異世界転生物語。

ある日突然、私が校長先生に——！？ 県立高校の校長となった県庁職員の2年間の奮闘記。33年間、地方公務員として県庁に勤めていた筆者の高校校長への異動は青天の霹靂であり、実際に勤務してみるとそこはまるで異世界であったという。挫折や対立を繰り返えし、それでもと奮闘し、改革を行う姿が日記から、リアルに感じられる。生徒も保護者も知らない、「校長先生」の仕事の内実を、本書では余すところなく描く。

教育関係者はもちろん、学校に通ったことのある全ての人におすすめ。